

雪嶺集

〈宮坂静生鑑〉

雲

小林貴子

秋暑し麒麟の模様見てめまひ
良き音をたてて書く人黄落期
食卓につきての禱り冬茜
狸汁飛驒の方より嫌な雲
千切れてもなくならぬ雲冬の雲
冬服に暮れ切る空の藍色を
葡萄新酒足元へ靄流れ来る
ばった教へて鞅鞅はどんな国
南座の方へと吹かれ都鳥
上原三川を思へば
悲しみのこごりて浮き来松藻虫



稚くす

佐藤映二

芒原分け入る我を稚くす
鳥渡る耶蘇に水責めありし川
夜の胡桃握れば握るほど闘志
曙光の揺らぐや貴船菊ひらく
柳枯る舞妓せかせか一力へ
冬日向蠅の分別くさきかな

四季と折り合っ

佐藤映二

去る十一月二十三日、待ちに待った現俳協創立七十周年記念全国俳句大会が幕を開けた。開会の辞と各種表彰に続き、現役教師四人のフォークグループ「じんましんず」による自前の歌と伴奏で、八百人ほど着席する会場が一挙に和んだ。筆字に絵入りで画面に映し出された句は「ジュニア俳句祭優秀作品」に選ばれたものばかり。「幸せをいつも入れてる冷蔵庫」「夕焼けをご飯にのせていただきます」「迷うなら向日葵畑走りだせ」(演奏順)など、子どもならではの発想にふ

さわしい旋律とギター伴奏の俳句ソングが好評を博した。これに続く宇多喜代子さんの講演も面白かった。①歳時記は紙、それも上質の紙製に限る②歳時記とは、あなたの、ひいては日本人みんなの記憶の再生装置である③季語の現場とは、日々暮らしているところであってどこか出かけて行く先にあるのではない、など。軽妙な語り口で会場を沸かせた。シンポジウム「俳句の未来・季語の未来」は、①俳句の今を象徴する三句②歳時記に新しく採用したい季語③俳句の未来を示す一句、の三点に関する事前アンケートへの回答をもとに四俳人が自説を述べあい、充実した一時間であった。